

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 002	提案機関名 畜産課
要望問題名 クロピラリド吸着剤の開発について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】  ・近年、畜産農家において、堆肥の滞留が課題となっているとともに、耕種農家側でも堆肥を使わなくなったことによる地力低下が課題となっている。 ・地力低下には土づくりの効果がある牛ふん堆肥が有用であるが、クロピラリドに弱い作物については生育障害が出る可能性があるため、牛ふん堆肥を薦めることができない。 ・クロピラリドは難分解性のため、分解・中和させることは困難であるが、活性炭を土壌に入れるとクロピラリドの被害が軽減されるという報告もあり、吸着については可能性があるのではないかと。 吸着によりクロピラリドを除去できれば耕種農家も気兼ねせず牛ふん堆肥を使用することができ、地力向上が期待される。 一方で、畜産農家も堆肥搬出先が増える事になり、堆肥滞留という課題が解消に向かうことが期待される。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考 ・必要に応じて畜産技術センターとの連携をよろしくお願いします。	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合) X-2(1)エ(カ)もみ殻燻炭のクロピラリド障害抑止効果の検討(令和元年度) IX-1(2)ウ(イ)各種炭化資材のクロピラリド障害抑止効果の検討(令和2～3年度)			
対応の内容等 2020年度の試験研究の結果から、もみ殻くん炭を堆肥化中または培土作成時に混合することで、サヤエンドウを用いた生物検定によりクロピラリド障害症状が軽減されることが示されています。しかしながら、トマトやマメ科植物等のクロピラリド感受性の高い作物は極微量でも障害症状が発生する可能性が高く、生産現場での使用は非常にリスクが高いため、堆肥の供給元にはクロピラリド検査を実施するなど得られた情報を耕種農家側にも共有をするように指導をお願いします。			
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			